

平成25年度「市長と語りあう会」について

1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
平成26年1月15日（水）	道川地区振興センター	19:00～20:20	18	5	23

○市側出席者

市長、副市長、経営企画部長、秘書広報室広報広聴係長

2 会の概要

○開会（経営企画部長）

- ・ 会の趣旨説明
- ・ 出席者紹介

○あいさつと市政運営の説明（山本市長）

市の今後取組むこととその現状について重点的に話をする。

(1) 行財政改革

- ・ 行財政改革に取組む背景には、市の財政（歳入面）が益々厳しくなることがある。
- ・ 地方交付税について、市町村合併後10年間は合併前の基準で交付税が措置されているが、今後は段階的に減額されていく。現在の交付税額が今後段階的に減額されていき、5年後には12億円減額となる。
- ・ 12億円は、市の一般会計の年間予算（約250億円）の5%にあたり、合併11年目からはこの減額が毎年行われることになる。平成32年からも収支均衡が保たれるように努めていかなければならない。
- ・ 今後、市の歳出削減に取組んでいかに得ないが、人件費、扶助費や物件費を削減する必要がある。補助金についても市民の皆様の理解を得て見直していきたい。
- ・ 平成25年度から平成28年度を集中改革期間として取り組むことで、一旦、非常事態宣言を解除した。これまで新規事業は控えてきたが、学校給食センター建設・市役所本庁耐震化工事・日赤建て替えに係る補助・防災無線デジタル化など平成26年度27年度は大きな予算となる。

(2) 人口拡大計画

- ・ 来年3月に具体的な計画を示す。平成26年度から28年度まで集中して、市としてあらゆる手段をとっていく。行革の集中改革期間と重なることから、縮小するところは縮小し、打つべきところにはお金を使うという、メリハリをつけていく。このことは市民の方にしっかりと説明していきたい。
- ・ 人口拡大の要素については、社会増減（転入者数と転出者数の差）、自然増減（出生者数と死亡者数の差）だけでなく、交流人口拡大もその要素である。交流人口については、一時的に益田市に滞留される方であるが、益田市に來られる頻度が増えれば定住人口にもつながっていく。滞在期間も延ばしていく。
- ・ 社会増のためには、いかに転入を増やすかというU I ターン誘導策が必要。転出を食い止めるには雇用の創出が不可欠。社会増減については、平成21年11月から平成22年10月までが-170人、翌年は-138人、次の年が-130人であったが、平成24年11月から平成25年10月までは+16人になっている。確たる要因はつかめておらず次年度についても確かではないが、明るい兆しなので定着させていきたい。
- ・ 自然増のためには、子育てに要する費用の負担軽減及び健康で長寿につながる施策に取り組む。

(3) その他の重点事項

① 山陰自動車道

ア 浜田・三隅間（浜田—西村、西村—三隅）

- ・ 浜田・西村間は平成26年度末に開通見込みで、西村・三隅間は平成28年度末までに開

通見込みである。

イ 三隅・益田間

- ・ 平成23年度末に事業化が決定された。今、調査、設計、測量中で、安田、鎌手地区においては先日から地元説明会が始まっている。今後、用地買収が始まる。
- ・ 早期開通のためにも用地買収にはご協力をお願いしたい。早ければ、平成26年度中の着工が可能かもしれない。
- ・ 近隣市町（萩・阿武・益田）長と協力し事業を進め、平成32年度までの開通を目指し今後も要望していきたい。

ウ 萩・益田間

- ・ 萩・益田間の60kmについて、これまでは事業化も決まっていなかった。平成25年度に区間絞り込み調査区間となり、60kmの中のどこを優先するかという調査が始まった。できれば、益田―田万川間から始めて頂きたいと要望していく。
- ・ 今年夏の豪雨では、国道191号が被災し、災害に弱いことが明らかになった。また国道9号では、連続雨量が200mmを越えると通行止めになる区間があるが、これまで16年間そういう事態がなかったのに今年は2回もそういう事があった。山陰自動車道が開通すれば、山陰道から県道17号線を通って津和野へ、また須佐からは国道315号線を通って徳佐に通じることが出来ることから、災害時のバイパス(代替)機能も発揮出来ることが再認識された。こうした実状を訴え、早期着工、開通を目指す。

② 萩・石見空港

ア 東京便

- ・ 「羽田発着枠政策コンテスト」の結果が発表され3月30日から東京の2便化が決定した。応募にあたっての提案内容は産業振興、観光振興、県大との連携、赤字額をANAと地元（県、益田市、近隣市町）で半分ずつ負担するという内容。2便化により地元にとっても観光、ビジネスにおいても利用しやすくなる。この2年間で実績が上がらず1便に戻ってしまった場合は、今後こそ2便化の可能性はかなり低くなる。利用拡大に力をいれて赤字を生じないように手を打っていきたい。最初の1年。又、スタートダッシュが特に大切だと考える。
- ・ 今月20日にグラントワで、萩・石見空港利用拡大総決起大会を開催。

(4) 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は、別紙のとおり。

- ① 東京便2便化について
- ② 観光客誘致の具体案について
- ③ 道川小学校全校生徒数倍増について
- ④ 交通について
- ⑤ 中山間地域交通について
- ⑥ 奥匹見峡への観光看板の復旧について
- ⑦ 観光課について
- ⑧ 美濃地屋敷萱屋根の修繕について
- ⑨ 市職員の人事異動について
- ⑩ 空家対策としてのアイデアについて

○ 閉 会 （経営企画部長）

平成25年度「市長と語りあう会」

開催日時：平成26年1月15日(水)19:00～20:20

会場 道川地区振興センター

要 望 事 項 等	回 答
<p>① 東京線2便化について 広島や岩国空港発着の航空パックは割安だが、比べて萩・石見空港便は割高である気がする。 萩・石見空港搭乗者に何らかの支援や割引制度を考えているか。</p>	<p>① まだ、航空商品や時間帯が決定していないので確としたものがないが、現在、サポート企業を募集し該当者の方への特典を設けている。又、個人の方への支援としては、数多く搭乗いただいた方への特典やお得なクーポン券などについても考えていきたい。 運賃については、航空会社に対して要望しているが、今後も続けていく。例えば、広島空港が全日空と日本航空が競合する関係で低運賃になるように、新幹線と競合しているかどうかや搭乗者の人数などが問題となる。 この度の政策コンテストの結果により、「どうしたら利用客が増えるか」については、航空会社（全日空）もこれまで以上に考えていくと思う。一緒になって、利用拡大を進めていきたい。</p>
<p>② 観光客誘致の具体案について 次のNHK大河ドラマに関して、益田市としての観光客誘致の具体的な案があるか。</p>	<p>② 平成27年年大河ドラマは、吉田松陰の妹の生涯を描いた「花燃ゆ」に決定している。 萩市は、平成26年から動き出すことになっている。益田市としても、空港利用にも関わってくると思うので、雪舟、人麿、日本一の清流高津川などの観光資源をPRして、全国から観光客を呼び込みたい。 市民の皆さんからもアイデアをいただきたい。</p>
<p>③ 道川小学校全校生徒数倍増について 平成21年度から学校再編の話がある中、道川小学校全校生徒数は、平成24年度7名が平成25年度当初で14名にと、2倍になった。このことは、地域や在校生の親の方々の努力の成果とも言われているが、市長はどのように感じているか。</p>	<p>③ 昨年の市長と語りあう会終了後に道川小学校に立ち寄った際、全校生徒数が7人から14人へ増える話を聞いた。入学式にも呼んでいただいたが別件と重なって行けなかった。 生徒数が増える要因としては、地元の方、Iターンの方、益田方面から通う方が増えるケースが考えられるが、いずれにしても地元の方々の努力が一番だと感じている。頭が下がる思いがする。</p>
<p>④ 交通について 道川小学校と匹見小学校の卒業生が匹見中学生になった際、複数学級になるのは難しい。 例えば国道191号線の使用を考えた場合、益田までは35kmで、その間には美都中や益田東中がある。一方、488号線を使用した場合、横田中までは40kmとなる。益田・美都方面にスクールバスを走らせることができないか。 又、この地域では、高校生になる15才からは、親元を離れて寮に入ることがほとんどであるが、そういった現状の解消や高齢者の</p>	<p>④ 学校の統廃合を考える時、学校で学ぶ環境をどのようにしたら保てるか、が問題になる。その為には、考え方の広がりやスポーツ面など、一定数の同級生がいることが大切になる。 一方、統廃合を行うと、住んでいる所と学校が離れてしまうという状況が発生する。匹見地域を中心に考えると、小学校で複式学級、中学校でも少人数になるので、バス1本で益田方面の学校に通うことを考えることもできる。住民の方々と膝を交えて、色々な角度から考えていきたい。</p>

方々が交通手段がない状況の中で、朝・晩にバスを入れて有効に活用できないか。

⑤ 中山間地域交通について

道川公民館では買い物ツアーを開催している。息子や娘が遠方にいる高齢者が多い現状の中で、「買い物」「病院」に関するものを道川地区で預かったような形になっている。

民間や行政のバスだけでは難しい問題なので、自治組織（集落）の中で考えることができるか。例えば、益田の介護タクシーの有効活用やバスについても空き時間を作らないようにするなど効率的な活用方法を考え、お年寄りが安心して暮らせる場所になるようにしていきたい。

⑥ 奥匹見峡への観光看板の復旧について

人口拡大計画の具体的案として、交流人口の拡大を提案する。そういった中で、奥匹見峡の遊歩道はとても良くなっているものの、肝心の看板（国道沿いと山側）が、昨年5月の突風で外れたままになっている。即急に復旧してほしい。

⑦ 観光課について

市に観光課がないがなぜか。これからも同じ考えか。

⑧ 美濃地屋敷萱屋根の修繕について

美濃地屋敷の萱の屋根が傷んできている。25年が限度だと思うが、修繕について計画を立てておく必要があるのではないか。

萱の入手については、すぐに手に入るものではなく、長期的な計画が必要になる。

⑨ 市職員の人事異動について

市職員が2、3年ですぐに異動するが、それで施策を執行することができるのか。

「地域づくりは誰がするのか」を考え、人づくりを進めてほしい。人事異動についても見極め時期を大事にして、プロフェッショナルな人材を育ててほしい。

又、買い物や通院といった生活圏に係る交通については、中山間地域の生活を整える為にも、行政と民間バスとの組み合わせについて考えていきたい。

⑤ 新年度では、自治会、地区社協、健康づくりの会などで地域自治組織を立ち上げて、行政とは独立した形での新しい地域運営のあり方を考えている。市内全域で5地区、匹見地域では匹見下地区振興センター、美都地域では都茂地区振興センターがモデル地区になっている。

行政としては、財政面として「まちづくり交付金」の交付やアドバイスという形の支援を行っていききたいと思っている。

又、通学や買い物関係の交通については今後、皆さんと一緒に考えていきたい。

⑥ 観光客を呼び込むことでは、案内板も大切なことだと思う。

国道側のものについては、担当課が現地確認はしている。その後の対応については、匹見支所が確認し、道川地区振興センター長へ連絡する。

⑦ 現在は、文化交流課が観光と交流を一緒に担当しているが、「観光」という文字があった方が良いと思う。

4月からは、機構改革があり「観光交流課」に課名変更しスタートする予定にしている。又、政策企画課と地域振興課を統一して「人口拡大課」とし、一体的に地域振興と人口拡大計画を行うなど、26年度からは市民に分かりやすい名称でスタートしたいと考えている。

⑧ 承知している。対応できるように努力したい。

文化財は、その都度対応するものではなく、出来る限り長期的に計画をする必要があると思っている。ご意見をふまえて検討していきたい。

⑨ 施策の案を立てたり、住民の方との話し合いを行ったりすることは、職員が行うものだと考える。その為には、ある程度まとまった数年、長期的に1つの仕事に従事するのが本来だと思う。

これまでは、ベテラン職員が早期退職するなどの状況があったが、現在は少しずつ安定してきていると思う。今後も安定した人事配置ができるようにしていきたい。

⑩ 空家対策としてのアイデアについて
人口拡大計画に関することとして、Iターンの方が増えてきている。けれども、空家はあるが持ち主が県外に住んでいる場合が多いので最終調整ができず、貸すことができない。
そういった方には固定資産税を上げる、又はIターン者に家を貸す方には特典をつけるなどの条例をつくり、差別化をしてはどうか。何らかのアイデアを出してほしい。

⑩ 空家バンク登録をいかに進めていくのかについては、人口拡大計画の中に入れていたいと思っている。家財道具を楽に処分する方策はないかなどを検討している。
「住みたいときにすぐ住む家がみつけれらる」ということを柱としていきたいので、皆さんからもアイデアをいただきたい。

午後8時20分終了

